

平成28年度全国保健師長会北海道支部研修 報告

平成28年12月10日札幌市教育文化会館において、平成28年度の北海道支部研修が開催されました。今年度はテーマを「健康で暮らせるまちづくりから地域包括ケアシステムを考える」とし、「地域包括ケアシステムにおける保健師の役割」と題し一橋大学院社会学研究科教授の猪飼周平氏をお招きし、講義をいただきました。



その中で地域包括ケアシステムとは地域社会に広範な多職種連携・地域連携の網の目を構築しようとしているもので、それは保健師にとって長年独自の現場として確保してきたフィールドだったはず、しかし地域包括ケアシステムのポンチ絵には保健師は存在していない。今まさに保健師は地域に出向き「見て、聞いて、把握して、繋いで、広げて、施策にする」という保健師の職の原点に回帰していかなくてはならないというメッセージをいただきました。

また、実践報告では、住民が主体となって運営する介護予防教室の介護予防サポーターの養成から支援についての報告、また、地区の在宅医療の推進に向けた協議会について、その学習会や意見交換会、実態調査を行ったうえで研修会や住民フォーラムを開催するなど、地域全体で在宅医療について考える取組みについて報告をしていただきました。

当日は、大雪で公共交通機関の運休や遅延が相次ぐ中50名を超える参加をいただき、アンケートでは「保健師の使命と役割について再確認することができました。」「地域包括システムに関わることを学ぶつもりで参加しましたが、保健師のあり方等、本質的なことを考えることができました。」「保健師の専門性の本質を考えさせられる充実した講演そして各報告だったと受け止めています。保健師自らの仕事に誇りをもって地域住民の生活・人生を支え続けてほしいと切望しています。」など、多くのポジティブな感想・意見をいただきました。

